



になった。「気持ちの良い人たちに囲まれて、本当に毎日が楽しい」と満面の笑みで話してくれた。

まちづくりにもアートを

「那須塩原は菅木志雄と奈良美智という二人の世界的なアーティストとのご縁がある。それを活かさない



04

アート×まちづくり

アートの世界では言わずと知れた温泉宿「板室温泉大黒屋」。アートが創り出す空間を求めて、世界中からお客さんが集まる。老舗旅館に変革をもたらした16代目社長の室井俊二さんに話を聞いた。

手はない」。全国各地で多様な町おこしが模索される中、独自性の高いアート資源を活用し、ここでしかできないまちづくりを力強く訴える室井さん。本市が策定した「アートを活かしたまちづくり戦略」について、「文化的な視点と明確なビジョンを持つて事業展開する必要がある」と語り、「いかに美意識をもって実践できるか」と今後に期待を込めた。

「河川敷の一本の幼木。自然の恵みを受け、樹は広く枝を伸ばし、強く根を張る。いつかその根は石をつかみ、どんな激流にも負けず、やがて川の流れをも変えるだろう」。まちづくりについて尋ねると、そんな示唆に富んだ答えが返ってきた。昔から哲学書を愛読し、板室の自然に身を置いてきた室井さんらしい言葉だ。「社会の流れは外からは変えられない」と確信する彼は、「まちを変えろには、その中に入らなければ」と話し、自らもまちづくりに力を注ぐ決意を比喻を用いて話してくれた。

己の内面の美意識に働きかけ、人を癒やし、鼓舞する力を持つアート。「価値あるアート作品を地域に広め、点から線、そして面へと展開するお手伝いがしたい」。そう今後の抱負を話し、「このまちにも美意識で共感する輪が広まってくれれば」と締めくくり、少し先の将来を見つめた。

ART369 プロジェクト 始動

黒磯駅周辺から板室温泉までの板室街道沿いを「ART369」として、アートで地域を盛り上げる「ART369プロジェクト」。板室街道が主に県道369号であること、本市の特産品・ミルクから名づけられました。▶問い合わせ 企画政策課 0287(62)7106

01 ART369プロジェクト オープニングセレモニー

プロジェクトのスタートを飾るセレモニーを開催。展示会の企画解説や映画の完成記念上映会を行います。

▶とき 2月23日(土) 午後1時30分開会

▶ところ いきいきふれあいセンター

▶申し込み 企画政策課 0287(62)7106

アート369 フェスティバル



03

テーマは「その先の風景」。黒磯駅周辺の店舗にアーティストの作品を展示します。まだ見ぬ世界、未知のアートとの出会いを探しに行きましょう。

▶とき 3月16日(土)～24日(日)

※開場時間は、各会場の営業時間に準じます。

▶ところ 黒磯駅周辺店舗 (KANEL BREAD / Iris bread & coffee / salon Chiune / Dear, Folks & Flowers / トナリギャラリー [1988 CAFÉ SHOZO] ほか)

▶参加アーティスト 今井麗、金氏徹平、川島小鳥、後藤武浩、惣田紗希、中島佑太

02 旧青木家那須別邸にて～ ART369×もうひとつの美術館

旧青木家那須別邸にて、ART369×もうひとつの美術館。那珂川町にある、アウトサイダーアートをテーマに掲げる日本で最初的美術館「もうひとつの美術館」。本市が誇る文化財・旧青木家那須別邸を舞台にしたアートをお楽しみください。

▶とき 2月26日(火)～3月3日(日) 午前9時～午後4時30分 (最終日は午後3時30分まで)

▶ところ 旧青木家那須別邸

▶入場料 無料(旧青木家那須別邸の観覧料が必要)

温泉旅館にアートの息吹を

板室温泉街の奥に架かる大黒橋を渡ると現代アートに包まれた空間が広がる。創業1551年の老舗の温泉宿「大黒屋」だ。板室の山々と調和するように、庭にもアート作品が並ぶこの宿には、国内外から多くの宿泊客が集まり、リピート率は7割を超えるほどの人気ぶりだ。老舗の温泉旅館が現代アートを取り入れるようになった変革の契機は、今から30年以上前にさかのぼる。

自然がもたらす恵みの温泉につかり、心身を癒してきた人々。料理を振る舞い、寝床を整えて客をもてなしてきた宿。はるか昔から続いてきた日本の文化・温泉。「その温泉文化と、アートという芸術文化を融合させ、全く新しいことがしたかった」と室井俊二さんは代表を引き継いだ当時を振り返った。その時から「保養とアート」を理念に掲げ、「美意識」を大切に経営が始まった。

長い歴史の中で、茶道や華道などの「道」の精神が深く根付いてきた日本。礼節が重んじられ、わびやさびといった独自の美意識が花を開いた。「論理や理屈ではない、感性の世界。そういった美意識を30年前からずっと追及してきた」と自ら歩んできた道を振り返った。

アートを根付かせる苦悩と挑戦

「有名ではなかったが、間違いなく天才だと感じた」。室井さんがそう評し、ずっと支え続けてきた作家・菅木志雄氏。「保養とアート」の理念のもと菅氏の作品を取り入れはじめた当初、周囲から理解を得られず、なじみの取引先や従業員が離れるなどの苦悩もあったという。作品の価値を理解してくれず、お客さんから「社長の趣味でしょ」と言われ、残念な思いをしたこともあった。

そんなときも、自らが掲げた理念を信じ、屈することがなかった室井さん。「必ず世界的な作家になると信じていた」と語る彼の後ろには、今や世界の名だたる美術館で個展が開催されるようになった菅氏の作品が掛けられていた。

次第に美意識が高く、アートのある空間に価値を感じてくれるお客さんが来てくれるようになり、従業員も彼の理念に沿った人が集まるよう



板室温泉 大黒屋 室井俊二さん